にようである。この種は戦後出版の「日本動物図鑑」には図示されている。日本に最も普通のコムカデ。

これら3種は肉眼では無理だが低倍率の顕微鏡下に比較的た易く識別出来る。次の点に注意すればよい。

最後の背板の後方中央は特異の溝となる。前側方或は側方に起生する長い背板剛毛を見ない……ミゾコムカデ

最後の背板の後方中央の溝は無い。多くの背板には前側方或は側方に起生する背板剛毛がある……ナミコムカデ

最後の背板の溝も側方に起生する剛毛も見られぬ。大部分の背板は後方に1対の三角状突起を具える……ヤサコムカデ

(高 島 春 雄)

虹のかけ橋(承前)

――フエルヘフ・高桑両博士の書簡往復――

三 好 保 徳

愛媛県立松山北高等学校

謹 啓

第20信 (1938, 3, 6 発信) について申上げましよう。次のようです。

「2月に頂きました御親切なおハガキに対し厚くお礼申上げます。あれ以来,琉球産のゲジ類を研究しましたが “*Thereuopoda jamashinai*” という一新種を確認致しました。又来月は,あなたが送つて下さつた洞穴性のヤスデについての一論文が出ることになつています。

最近私は “Californiulidae” という一新科を設定しました。以前 1883 年に記載された *Paeromopus* Karsch はこの科に入るものでしよう。

日本にもこの科に入るものが見つかると思います。

先日お送り下さつた論文有難く拝受しました。さて日本と支那との戦争はいつ終ることでしようか? ロシヤというのは文化国家ではありません。」などと書いてありますがここの所現在の情勢から,少し省略することに致します。そして次へ。「近く私はミュンヘン博物館所蔵の多足類に関する研究物をお送りしようと思つています。

又日本の標品をお送り下さいませ。

目下私は全世界の陸棲等脚類の綜合的な研究を1冊の書物に書き上げたところです。」

第 21 信 (1938, 8, 26 発信)

「御親切に又東部アジヤ産倍足類を多数お送り下さいまして有難うございました。

その後それの研究をつづけて，今終つたところです。終りにつけました目録を御らんになればおわかりになります通り，11 の新種と 3 つの新属を含んでいました。

貴国は今戦争中のことといろいろ御不自由でお暮しのことと思います，だから私はあなたの標品について研究したことをドイツで印刷するように運びましよう。

それで御採集になつた場所の中「諏訪」という所はどこかお知らせ下さい。それから又第 19 番の番号がついている標品もフイリツピンのどこで採られたのかお知らせ下さいませ。

そのうち私の東部アジア産イシムカデについての論文をお受取りになると想いますがどうか御受納下さい。

さて私の切なる願いは，あなたが日本産の倍足類をさらに多く送つて下さることです。それをもつて，遂に私はやゝ信頼するに足る生物地理学的判断を日本に対して下すことが出来ると思います。承りますれば御令息はアメリカへ旅立たれた由，きつとあなたのためにカリフォルニヤの多足類を採集なさることでしよう。

あなたは戦争を，あらゆる価値のために早く終るようになさらねばなりません。戦争によつては善いものは何ももたらされることはありません。長期にわたる程，日本は疲弊してしまうでしよう，そしてソ連は北から機会をうかゞつています。」

とあります。全く多足類の研究に関してのこと以外を殆ど手紙に書かれなかつたヘルヘフ博士がこゝにわずかながらこのような国際関係に対しての御意見を述べられたのですが，事実は全くその御忠告の通りになつたことは私にとつては大いなる驚きでありました。

次に付記せられた倍足類の目録をかきましよう。

Diplopoda (倍足類)

1. Kagosima —— ?　♀♀
2. Sizuoka ;　*Nedyopus tambanus, mangaesinus* Att.
3. Kagosima ;　*Fusiulus kiusiensis* n. sp.
4. Mt. Unzen ;　*Kiusiozonium* n.g. *japonicum* n. sp.
5. Isaku ;　*Niponiella ornata* n. sp.
6. Riu-Kiu ;　*Dolichoglyphius asper* Verh.

7. Nikko; *Trichozonium hirsutum* Verh.
   ——; *Epanerchodus orieutalis, takakurai* Verh.
8. Sendai; *Epanerchodus* sp.
9. Niizima; *Fusiulus coloratus* n. sp.
10. Koti; *Amblyiulus* (*Japanioiulus*) *lobatus* Verh.
11. Formosa; ? ♀
12. Hokkaido; *Hokkaidaria* n.g. *hamuligera* n. sp.
13. *Epanerchodus* sp.
14. Tokyo; *Fusiulus takakuwai* n. sp.
16. Korea; *Orthomorpha circofera, affinis* Verh.
17. ——; *Riukiaria koreana* n. sp.
18. Tokyo; *Fontaria* (*Japonaria*) *acutidens, curvipes* n. subsp.
19. Philippinen; *Rhopalopoeus* n.g. *hirsutus* n. sp.
20. Palau; *Platyrhacus attemsii* n. sp.

第 22 信 (1938, 11, 30 発信)

「その後お送り下さった標品が無事到着致しました。厚くお礼申上げます。しかし尚多くの標品をお送り下さいますことをお願い致します。それによりまして，私は日本の倍足類についての研究を完成に導くことが出来るのです。私は一ケ月ばかり東アルプスで過しました。その間そこで約 1530 個体の多足類及び等脚類の標品を採集しました。

その後私はあなたの御令息からお手紙を頂きました。それによりますと私の所を訪れて下さるそうですが，しかし残念ながら私達は意思を十分に諒解し合うことは出来ないでしよう。と申しますのは御令息はドイツ語を話されないそうですし，私は英語をよく聞きわけることが出来ないからです。恐らく御令息は通訳をつれてお出になるでしよう。そうすると私は大変によろこばしいのですが。

さて御質問のことは別紙の通りお答えします。

(その別紙と申しますのは高桑先生から質問された英文でかゝれた紙片で，そこには，あなたが新設された次の属はどの科に属しますかお知らせ下さい。とあり，それに答えられたものです。)

Kiusiozonium—Kiusiozoniidae; Colobognatha

Hokkaidaria—┐—Fontariidae; Polydesmoidea
Koreoaria ——┘

Rhopalopoeus—Sphaerotheriidae; Opisthandria

この夏，私はマウリチウス島の唇足類について研究をしました。

別便にて新しく出来ました私の論文を進呈致します。」

第 23 信 (1939, 3, 25 発信)

「何をおいても私は，この度御令息に持たせて下さつた美しい日本の絹織物を頂き，その御親切に対して深い感謝をさゝげなければなりません。よろこんで私はそれを私の娘に与えることにしました。

この冬は私は全く多忙でした。アフリカ，小アジア，マウリチウスそれからアルプス等の標品を調査しなければなりませんでしたから。それでまだあなたのお送り下さつた標品を見ていません。しかし間もなくそれについて御返事申上げます。

それでは又どうか多くの標品をお送り下さいますようにお願い致します。多くの標品によつてこそ私の研究はよい結果にみちびかれるのです。

あなたは中部ヨーロッパに起つた大変革をお聞きになりましたか。ドイツは今や最も古いプラーグ大学をもつチェツコを占領しました。

やがて私はあなたに多くの論文をお送りするつもりです。」

第 24 信 (1939, 6, 10 発信)

「その後私はあなたの標品を研究致しました。次のようにお知らせ致します。

N. 11 *Niponiosoma troglodytes* n.g. n. sp.

これによつては新科が建てられると思うのですが，たゞ一疋の雄があるのみですからもつとお送り下さると有難いと思います。

N. 1 *Scleroprotopus longiventris* n. sp.

N. 22 Spirobolide ♀のみ Philippinen

N. 8 *Lavabates takakuwai* n.g. n. sp.

N. 16 *Syntelopodeuma hokkaidense* n. sp.

N. 26 *Okeanobates serratus* n.g. n. sp.

N. 24 *Karteroiulus niger* Att.

N. 6 *Dolichoglyphius asper* Verh.

N. 25 *Fusiulus koreanus, boninensis* m.

N. 14 *Amblyiulus lobatus* Verh.

N. 3 *Riukiupeltis jamashinai* n.g. n. sp.

N. 15 *Epanerchodus fontium* n. sp.

N. 27 *Hedinomorpha formosana* n. sp.

N. 17 *Hokkaidaria hamuligera* Verh.

N. 2 *Epanerchodus inferus* n. sp.

N. 5 *Nedyopus tambanus, mangaesinus* Att.

N. 13 *Parnedyopus montanus* n.g. n. sp.

N. 19 *Orthomorpha gracilis* Mein.

N. 10 *Kylindogaster nodulosa* n.g. n. sp.

ご覧のようにわずかの標品の中から六つの新属を確認することが出来ました。この事は日本に新種が多い証拠です。私はあなたがさらに多くの標品をお送り下さることをお願いします。それによつて私は明らかな日本の動物相の実態を知ることが出来ます。しかし等脚類についてはそれ程のことが出来る資料を私はまだ頂いていません。

今年の秋は再び南アルプスに研究旅行を行う予定でいます。」

第 25 信 (1939, 12, 31 発信)

「絵ハガキ有難く拝見致しました。富士山のながめはまことに興味深いものでありました。お送り下さる標品はカナダ経由では無くなるおそれがありますからシベリヤ経由でお送り下さいませ。おたのみします。

戦争中にもかゝわらずこの秋私はアルプスに行つて効果的な新研究をすることが出来ました。

今私は南部アフリカの標品を研究していますが，その中に絲状の単顎類のヤスデがいましてそれは体節 182 もある前代未聞のものです。

あなたがおたずねになりました "*Mongoliulus*" の原記載は Pocock 1903 Ann. Mag. Nat. Hist. (7) Vol. 22, No. 71, p. 522 にありますが，しかし更に Attems 1909 Arkiv för Zoologi, Band 5, No. 3, S. 51 を御覧になるのがいいと思います。この文献は東部アジヤの多足類にとつて重要な価値をもつものです。

近日のうちに私の新しい論文を進呈します。」

これにつゞいてイギリスとの戦争のことが書いてありますがそれ程こゝに必要でありませんから省略致します。

もう後に四通の書簡が残つているのみとなりました。次にそれについてお知らせしようと思います。

1949, 8, 15, 三瓶にて　　敬　具

謹　啓

第 26 信 (1940, 2, 8 発信)

「去る 12 月 25 日付の御手紙有難く拝見しました。そして又あなたのカナダ経由でお送り下さつた標品も遂に到着しました。しかしあまり長くかゝりましたゝめ標品の一部が駄目になつていました。けれど私はその大部分を研究することが出来ました。

次にはシベリヤ経由でお送り下さるようにおたのみします。

私は今度約1ヶ月間の採集旅行をしました。そして多足類，等脚類の標品を2000個体を越えるほどもとめることが出来ました。

さて最近私は小アジヤ産の多くの多足類標品を研究しましたが新種が多く，東部アジヤ産のものと比較して興味津々たるものがあります。

次にアテムス博士の名宛は次のようです。

Wien　Naturhistorisches Museum, Burgring.

アテムス氏は最早非常な年寄りで書くことも稀ですから，あなたの質問に答えてくれるかどうかを私は知りません。(三好註　高桑先生がいつかお話しになつたことがありますが，ヘルヘフ博士の予想の通り，手紙を出してもアテムス博士からは何の返事もなかつたそうです)ともかくあなたのお手紙をアテムス氏に廻送致しました。

次に今印刷されている私の琉球産ゲジ類の論文をやがてお送り出来るであろうことを望んでいます。」

第27信（これはハガキです 1940, 5, 30 発信）

「お便り有難うございました。別便で新しい私の論文をお送りしました。この中には琉球産のものが入つています。

戦争のために印刷が大変遅れるようになつたのですが，しかしそれでも私はやがて更に多くの論文をお送りすることが出来ます。」

このハガキにも，又第26信の終りにもイギリスに対する痛烈な批判がなされていますけれど，考える所あつてそれを省きます。

第28信（1940, 11, 8 発信）

「あなたの10月30日付お手紙有難く拝見しました。そしてあなたがお見せ下さつたヤスデの原図を同封してお返しします。私はこの図にえがかれた型を“Uroblaniulus”属のものと認めることは出来ません。と申しますのはこの属は後生殖肢には退化した端肢をもつのみであり，旦肛門節に長い一突起をもつているのです。

あなたは私に標品を送つたとお書きになつていましたがまだ私は受取つていません。

先日私の所へ日本の若い交換学生が訪れて来ました。その学生は私に若干のヤスデの標品を持つて来てくれました。」

とありますが，この交換学生というのは京都帝大出身の吉井良三氏でありました。

この手紙にもイギリスに対して攻撃が加えられていますが省略します。

第29信（1941, 2, 20 発信）

「お送り下さいました標品，論文の別刷そしておハガキまことに有難く拝受しました。お礼申上げます。

その標品のうちヤスデには次のようなものがありました。

No. 9 *Epanerchodus lobatus* n. sp.

No. 9 *Epanerchodus orientalis* Att.

No. 4 ―――――― *isikawai* n. sp.

No. 14 Palao: *Okeanozonium* n.g. (Siphonophoridae)

私は又若干のヤスデ標品をあなたの知人であるという吉井氏から頂きました。吉井さんはかなり上手にドイツ語を話されます。春には再び私を訪れると言つていました。

別便で私は 10 部の新論文を進呈します。

あなたは，あなたの論文について私の意見をお求めになりましたが，私はあなたが小さく分けて論文を出されないで綜合的なものを出されることを要望します。それによつて煩雑になる多くの文献表題も出来ないというものです。

私は日本産のツチムカデ科の綜合的研究をあなたがなさることを提案します。

私のトルコ産多足類の研究からあなたにはさらに多くの知識を得られることと思います。やがてお送りします。それは数册の論文です。私はトルコから倍足類，唇足類及び等脚類の標品を約 1000 個体ほど入手しています。あなたは多分更に東部アジヤの標品を送つて下さるでしようし，それをもつて私はいよいよ綜合的研究を完成することが出来るでしよう。」

ながながとヘルヘフ博士の手紙の内容をおつたえして来ましたが，遂にこれで終りました。

思えば 14 ケ年もつゞけられたこの交渉はまだまだ継続されるはずであつたでしように，その後の国際情勢は遂に全くこのような知識の交換を許さないことになつてしまいました。第 2 次世界大戦が終つてから，高桑先生はいつもヘルヘフ博士のことを案じていられましたが，しかし博士の様子は全く不明でその生死の程もわかりません。

お手紙の中にありますように，高桑先生から送られた多くの資料によりやがて日本の綜合的な多足類殊にヤスデの研究の完成が，ヘルヘフ博士によつて成されようとしていましたのにその後の事情をさえも知ることが出来ないようなことになつてしまいました。

私はヘルヘフ博士のお手紙を読み終えてさまざまな思いにふけりました。14 ケ年の間いつも同じ広さの用紙に同じ字体で同じように倍足類と等脚類との標品を求めつづけられていることも私は深い感銘を受けたことの一つです。そして又，たえ間もなく何百何千という標品を処理して行かれた勢力的な研究の様子もうかゞえて驚かずにはいられません。又この 29 通の書簡の中に自身の研究のこと以外には――たとえば そ

の夫人の死についてさえも簡単に記されたにすぎず，終りに近ずいた数通の手紙にイギリスに対する憤りの言葉が若干書かれていたとはいえ――殆ど全くふれていられないということは又私にとつてはヘルヘフ博士の為人を知るに十分であります。

手紙には往々その当事者でなくては理解されがたい言葉が織り込まれているものです。にもかゝわりませず私のように初歩の力しかドイツ語に対してもつていない者がこれを飜訳したのですから誤訳も多いことゝ想いますが，それでも私はこの貴重な手紙をじつと1人でしまつておくことが出来なかつたのです。私達は明治20年前後，日本の植物学者が多くの標品を外国の学者殊にロシヤのマキシモヴイツチ先生等に送つてその教えを受けたということを聞いています。しかしいつ如何なるものが誰によつて送られたか，いつどの植物の学名を知らされたかについては全く知ることが出来ません。若し今それを知ることが出来ますなら，それはどんなに私達にとつて興味ある事で有りましようか，そのような意味においても，私がこれ迄何回かのお手紙によつてお伝えしましたこのヘルヘフ博士の手紙の内容には深い興味をお持ち下さつたことと想います。

ご覧のように，高桑先生が送られた標品によつて多くの新属新種が発見せられました。全く不明であつた日本の多足類殊に倍足類はどんどん明らかにされて行きました。

このことは移動力のとぼしいしかも特殊な環境にすむヤスデ類が隔離によつて種が分化して行くことの著しい傾向をもつ動物の一群であることを示しているかと思うのですが，しかしこゝではそのようなことに就いては何も申上げようとは思いません。たゞ日本に産するヤスデが殆ど新種であり又新属であつたということは将来の研究にも，ある暗示を与えるものであることを否定することは出来ないと思います。

思えばヘルヘフ博士は，あなたが書いていられましたようにスプリッターでありました。しかも他国人の研究に比べてドイツ人のした仕事を，殊に御自分の仕事の価値を大きく認めていられたと想える点が少くありません。

終りに，いつもヨーロッパから自分が同定して正確と信ずる多足類の標品を，高桑先生の比較研究の資料として送りつづけられた床しいヘルヘフ博士のお心をおもい，第2次世戦大戦によつて限り無く悲しい生活に追いこまれたであろうことを想いながらヘルヘフ博士の手紙についての感想を終ります。

高桑先生がお送りになつた多くの日本産多足類の標品，殊に多くの模式標品，いやそれどころではありません。世界各地から集つていた無数の標品はどうなつたことでありましようか。しかし仮令それが無くなつていたにしましても私はそれほど悲歎に暮れようとは思いません。残念にはちがいありません。けれども，いつ迄も残るものは文献であつて標品そのものでは無いでしよう。何百何千と世界にばらまかれた論文は，1

ヶ所に保存せられている標品より——それがいかに大切に保管されているにしても——長い生命をもつものだと信じています。液漬標品の場合には一層のことですが，百年の将来を考えてさえも，いや或は数十年後には早くも再調査の役にたゝなくなる生物標品もあるように思います。ムカデ，ヤスデの類は何年の保存にたえるでしょうか，それほど長いとは思えません。その場合には同種の最もそれに近い標徴をもつものが身代り標品になるのでしょう。しかし，とにかく，古くなつて色もあせ，用心しないと砕けてしまいそうな標品を大事勿体に守つているのは少し滑稽なようにも思います。物的証拠と再査のために模式標品の重要性を否定するものはないでしょう。けれども日常私どもが活用し得るものは文献であり，長い生命あるものも亦文献です。したがつて心から『軽卒な観察により簡単な記載をなして新種の設定，または既知種への同定をなすことは厳に慎しむべきことである』とつくづく思う者であります。

1949. 8. 31 三瓶にて　　　　敬　具

第3信

n.g.＝novum genus　新属　n. sp.＝nova　species 新種

No. 29　フトケヤスデ

No. 25　マクラギヤスデ

No. 24　ヤケヤスデ

No. 8—9　タカナガズジムカデ

樺太産＝カラフトキヨクジムカデ

No. IV　ヨコジムカデ

No. 2　セスジアカムカデ

No. 18　イツスンムカデ

第5信

No. 29　フトケヤスデ

No. 31＝*Epanerchodus orientalis takakuwai* V.　タカヒガシオビヤスデ

No. 35＝*Niponia nodulosa*＝*Niponiella nodulosa*＝*Onomatoplanus nodulosus*＝マクラギヤスデ

No. 24　ヤケヤスデ

No. 26　*Orthomorpha circophora*＝*O. circofera*　キマダラヤケヤスデ

No. VI　ブチナガズジムカデ

樺太＝カラフトキヨクジムカデ

No. 8—9　タカナガズジムカデ

No. 19 マドナガズジムカデ
No. IV ヨコジムカデ
No. 2 セスジアカムカデ
No. 2 ヨスジアカムカデ
No. 14 ゲジムカデ
No. 18 イツスンムカデ
No. 13 イシムカデの一種
No. 12 ヒトフシムカデの一種

第7信

No. 27 アカヒラタヤスデ　No. 21 ?
No. 14 テングヒラタヤスデ　No. 2 ノコバヤスデ
No. 38 タカサゴミコシヤスデ　No. 20 ウマガエシアカヤスデ
No. 17 ヘルヘフフジヤスデ　No. 22 マンシウヤケヤスデ
No. 24 ヤケヤスデ　No. 47 ヤマトタマヤスデ
No. 16=*Japonaria falcifera*=ヘラババヤスデ
No. 19 タカクワヤスデ
No. 40=*Japonaria acutidens* =クイロババヤスデ
No. 39=*Japonaria attemsi* アテムスババヤスデ
No. 24 ヤケヤスデ
No. 6 ナガゲジムカデ　No. 18 及び 37 イツスンムカデ
No. 12 カラフトイシムカデ　No. 15 ハーゼイシムカデ
No. 34=*Monotarsobius crassipes Holstii* ホルストヒトフシムカデ
No. 15 ハーゼイシムカデ

第12信

No. 16 タテウネホラヤスデ　No. 11 ヤケヤスデ
No. 3=*Fusiulus yamasinai* ヤマシナフジヤスデ
No. 2=?　No. 8 ホラオビヤスデ
No. 22=*Japonaria laminata armigera* キシヤヤスデ
No. 1 クロオキナワヤスデ　No. 21 オキナワヤスデ
No. 9=*Yamasinaium noduligerum* ヤマシナヒラタヤスデ
No. 19=?　No. 13 シラギアカヤスデ
No. 17 マガイアカヤスデ　No. 4 ヒモヤスデ

No. 15 イマイツスンムカデ　No. 15 コマイツスンムカデ

第 16 信

No. 13, 14 ネジババヤスデ　No. 28 ヤサババヤスデ

No. 16=*Japonaria laminata laminata* オビババヤスデ

No. 19 オキナワヤスデ　No. 23 ブチババヤスデ

No. 25 ケイリンフジヤスデ　No. 6 フジヤスデモドキ

No. 21 マサキヤケヤスデ　No. 26 コマオビヤスデ

No. 8 ツチオビヤスデ　No. 27 シラギアカヤスデ

No. 18 ヤマシナタマヤスデ

第 21 信

No. 2 ウマガエシアカヤスデ　No. 3=?

No. 4=?　No. 5=?

No. 6 ヒモヤスデ　No. 7 アカヒラタヤスデ

——— タカヒガシオビヤスデ　No. 9=?

No. 10=*Japanioiulus lobatus* フジヤスデモドキ

No. 12=?　No. 14=?

No. 16 マンシウヤケヤスデ

No. 17=?　No. 18=?

No. 19=?　No. 20=?

第 24 信

No. 11=?　No. 1=?

No. 8=?　No. 16 エゾミコシヤスデ

No. 26 ヒロウミヤスデ　No. 24 クロヒメヤスデ

No. 6 ヒモヤスデ　No. 25 オガサワラフジヤスデ

No. 14=?　No. 3 ミイツヤスデ

No. 15 ムシロオビヤスデ　No. 27=?

No. 17=?　No. 2=?

No. 5 ウマガエシアカヤスデ　No. 13=?

No. 19 ヤケヤスデ　No. 10 タメトモヤスデ

第 29 信

No. 9 ナガトゲオビヤスデ　No. 9 ヒガシオビヤスデ

No. 4 チビシロオビヤスデ　No. 14=?